

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- 2009年10月調査結果 -



2009年10月30日

業況DIは、低水準の横ばい状態で推移

< 結果のポイント >

10月の全産業合計の業況DIは 60.6と、前月に比べ+0.8ポイントと、前月とほぼ同水準で推移した。業況は、最悪期を脱し、一部で底離れの兆しもみられるが、回復の足取りは鈍く、低水準の横ばい状態となっている。経済対策の効果などから、薄型テレビなど一部商品の売上は持ち直しているが、全体としては競争激化による低価格受注や販売単価の低下が続いている。企業の収益状況は厳しく、回復基調には至っていない。

業種別では、製造業、小売業、サービス業でマイナス幅が縮小した。エコポイント制度や環境対応車の購入助成、高速道路料金値下げ効果などが続くとともに、気温の低下等から季節商品が動いた。一方、建設業、卸売業ではマイナス幅が拡大した。建設業については、低価格受注による採算の悪化や補正予算の凍結による公共工事の停止について懸念する声が多かった。卸売業については、個人消費や設備投資の冷え込みから売上不振や採算の悪化が影響したものと思われる。

売上DI、採算DI、仕入単価DIについては、マイナス幅は縮小した。従業員DI、資金繰りDIについては、低水準で推移した。従業員DIについては、雇用維持のため労働時間や給与等を調整している企業は6割を超えるなど、雇用情勢は依然厳しい。また、資金繰りDIについては、売上低迷の長期化により、借入に担保を要求されるなど金融機関の貸し出し態度の厳格化を指摘する声が多くなっている。

先行きについては、49.9と、前月に比べ3.5ポイントとマイナス幅が拡大した。雇用・所得情勢の悪化に伴う個人消費、住宅建設の減退、企業収益の落ち込みによる設備投資の減少、建設業を中心に公共工事の前倒し発注に伴う年度後半の工事量減少、新型インフルエンザの感染拡大、円高の長期化による景気の下振れや二番底を懸念する声が強い。

----- 調査要領 -----

調査期間 2009年10月19日～23日

調査対象 全国の407商工会議所が2589業種組合などにヒアリング

(内訳) 建設業: 383 製造業: 615 卸売業: 235

小売業: 737 サービス業: 619

調査項目 今月の業況・売上・採算などについての状況及び業界として当面する問題等
DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算:(好転) - (悪化) 売上:(増加) - (減少)

＜ 産業別の特徴的な動き ＞

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、60.6と、前月に比べると+0.8ポイントと、ほぼ横ばいで推移した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、卸売業で拡大し、製造業、小売業、サービス業で縮小した。

製造業では、エコポイント制度や環境対応車の購入助成など経済対策の効果により、売上は下げ止まっているものの低水準（L字型）とする企業が約5割に達している。

また、多くの業種から、企業の資金繰りが厳しさを増す中で、中小企業向け融資や住宅ローンの返済を猶予する制度を盛り込んだ「中小企業金融円滑化法案」に期待する声もあった。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

DI値(前月比) ↑ 好転 ↓ 悪化

【建設業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↑	↓	↓	↑

- ・「売上は底をついて横ばい。土木工事は依然少なく、住宅建設は微増」（土木工事業）
- ・「補正予算の一部停止に関する影響が早くも出始め、国の工事が減少。県、市の工事についても減少を懸念」（一般工事業）
- ・「仕事量は昨年同様だが利益が出ない」（左官工事業）

【製造業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↓

- ・「自動車関連については、底を脱した感があるが、製造業全体としては依然厳しい状況」（自動車・同附属製品製造業）
- ・「中小企業金融円滑化法案については、今後も安心して借りられる制度であれば利用したい」（水産食料品製造業）
- ・「先がぜんぜん見えない状況。年末年始の二番底を懸念」（他電気機器製造業）

【卸売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↓	↓	↓	⇔	↑	↑

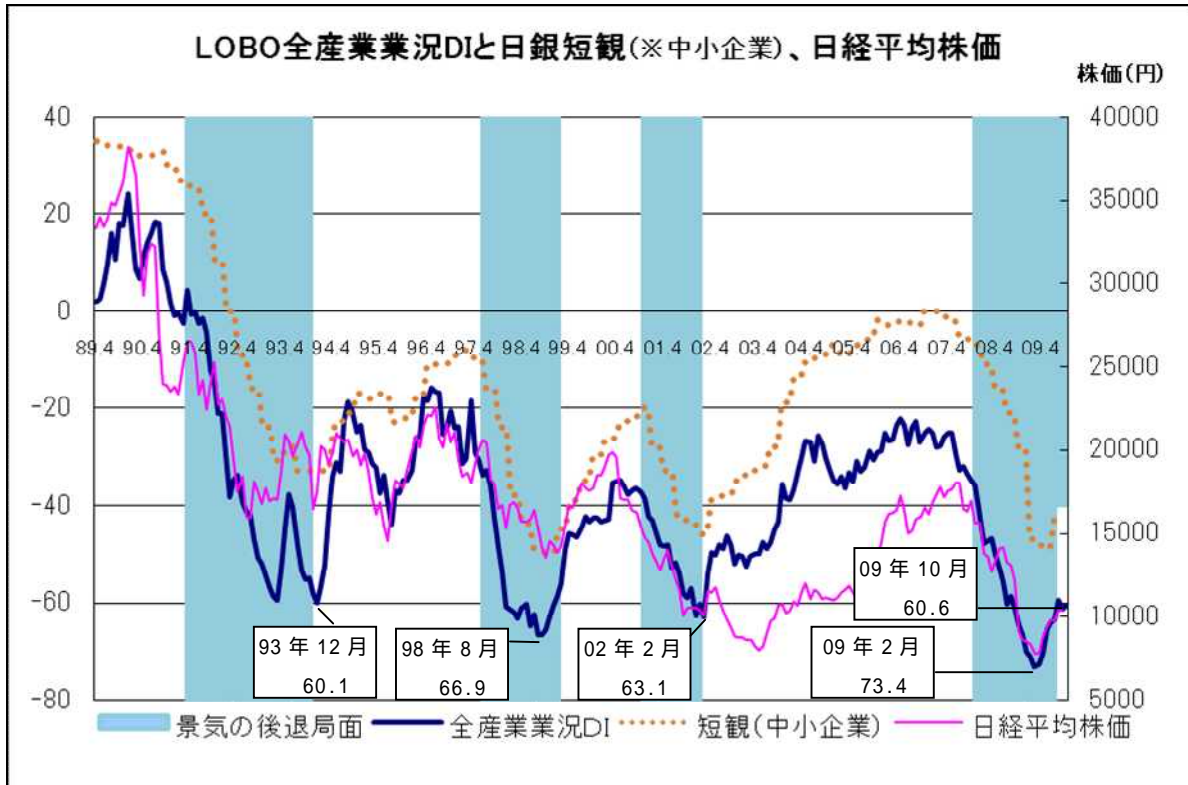
- ・「安ければ売れるという状況ではない」（農畜産水産物卸売業）
- ・「対前月比ではほぼ下げ止まったが低水準が続く見通し」（鉱物金属材料卸売業）
- ・「円高の影響を懸念している」（他の卸売業）

【小売業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↓	↓	↑	↑	↑

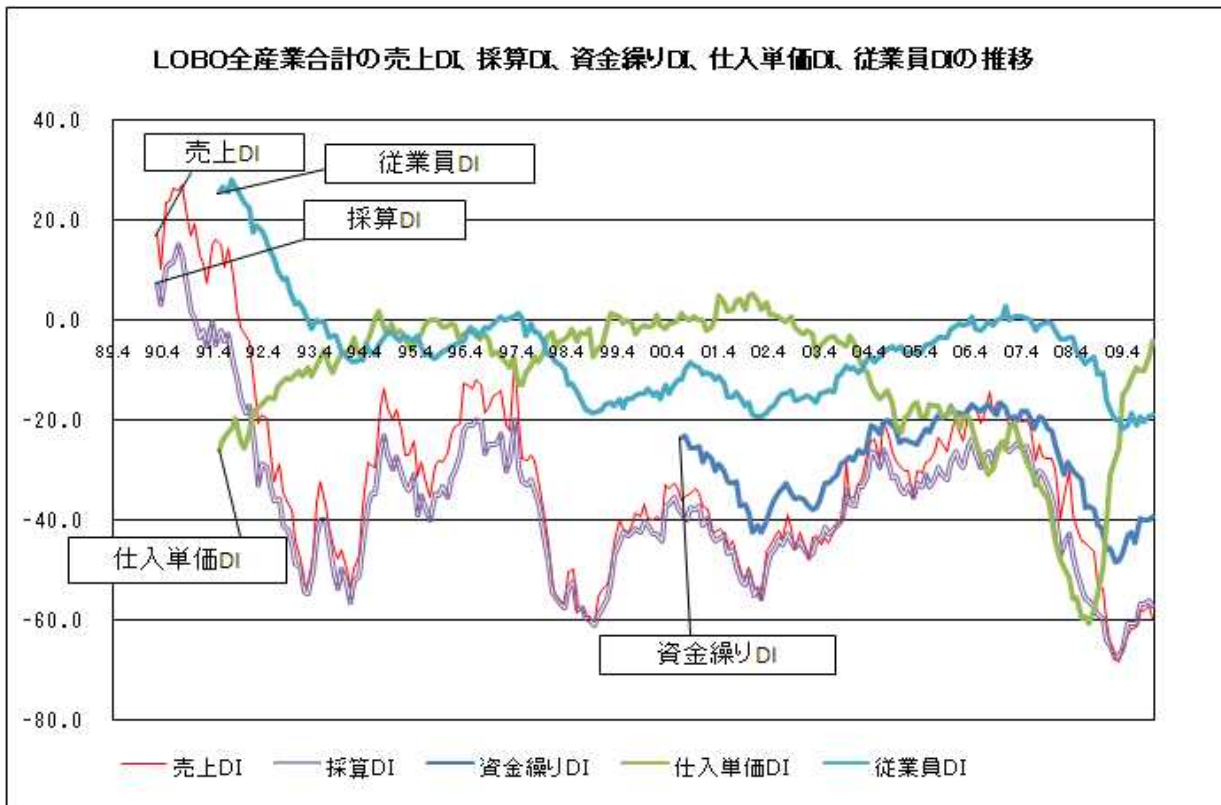
- ・「食品は、他店との競争が厳しいが、春先と比べ客数は回復した。家電では、薄型液晶テレビが好調」（百貨店）
- ・「従業員の時間外勤務の削減、アルバイトの出勤日数・時間の調整で人件費を削減するなど、収益減少をカバーしている」（その他の小売業）
- ・「先行きの売上回復が見込めないため余力のあるうちに店をたたむ（廃業）店が多くなっている」（商店街）

【サービス業】	業況	売上	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
	↑	↑	↑	↑	↑	↑

- ・「修学旅行は今のところ順調に推移しているが、新型インフルエンザの影響で『売上の見込みが立てられない』など先行きを懸念する声がある」（旅館）
- ・「競合店が多く売上は低迷。経営者の高齢化が進み後継者もいないため廃業が多くなっている」（洗濯業）
- ・「新型インフルエンザの影響による来客数の減少を懸念」（他の一般飲食店）



短観(中小企業): 資本金2千万円以上の企業が調査対象



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、60.6となり、前月に比べると+0.8ポイントと、ほぼ横ばいで推移した。

産業別にみると、DI値のマイナス幅は、建設業、卸売業を除く、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が49.9と前月と比べ3.5ポイントと、マイナス幅が拡大した。昨年同時期の先行き見通し（60.5）に比べると10ポイント以上マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。前月比では、サービス業を除く、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

業況DI(前年同月比)の推移

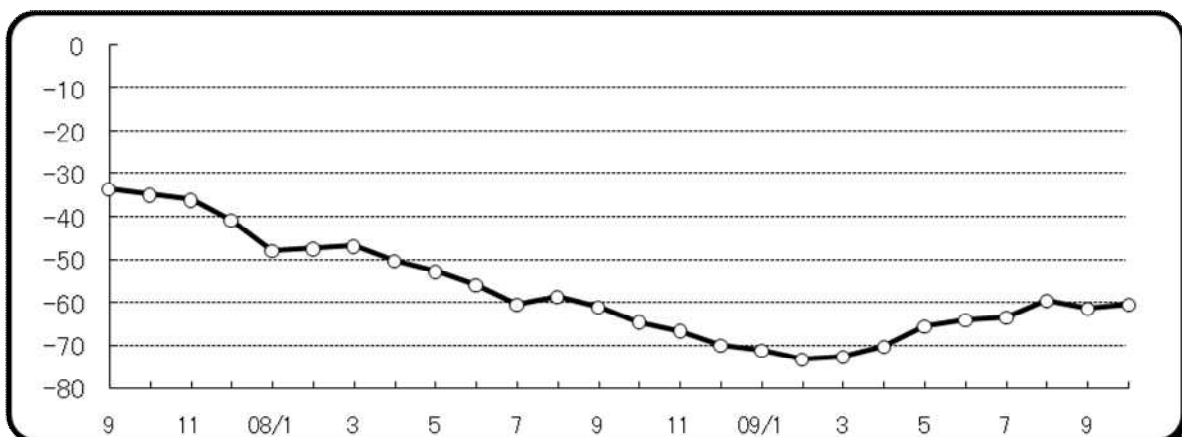
	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	65.7	64.2	63.6	59.6	61.4	60.6	49.9 (46.4 / 60.5)
建設	71.6	66.7	61.2	56.3	57.5	64.1	57.7 (49.8 / 66.4)
製造	69.1	70.6	65.7	62.9	67.0	62.4	46.3 (40.7 / 59.3)
卸売	66.2	61.8	65.5	61.1	56.8	65.4	51.1 (41.5 / 57.4)
小売	66.2	63.4	65.1	60.7	64.0	62.9	52.7 (50.1 / 60.9)
サービス	57.7	57.3	60.3	56.3	56.9	51.8	44.9 (47.8 / 58.4)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI

()内左側(網かけ)は前月9月の先行き見通しDI

()内右側は昨年10月の先行き見通しDI

(業況DI(全産業・前年同月比)の推移)



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、57.2となり、前月に比べると+1.2ポイントと、マイナス幅が縮小した。産業別にみると、製造業、サービス業の2業種でマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月ベース)が44.2と前月に比べ3.4と、マイナス幅が拡大した。昨年同時期の先行き見通し(48.3)に比べると4ポイント程マイナス幅が縮小している。

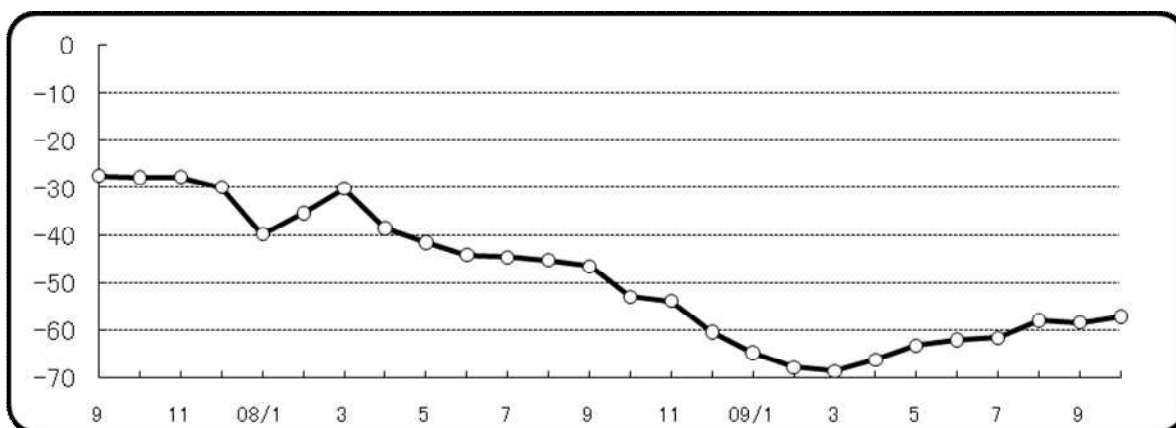
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、卸売業、小売業を除く、他の3業種でマイナス幅が縮小している。前月比では、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	63.2	62.0	61.6	57.9	58.4	57.2	44.2 (40.8 / 48.3)
建設	69.3	60.3	54.2	52.0	52.2	52.6	52.3 (42.7 / 60.6)
製造	68.2	65.9	65.0	62.6	66.1	62.0	35.6 (33.4 / 46.2)
卸売	53.8	61.1	60.0	56.9	54.7	61.9	35.8 (34.0 / 32.9)
小売	60.8	64.6	66.7	61.4	60.6	60.7	52.3 (47.6 / 49.3)
サービス	60.5	56.2	57.3	52.7	53.4	49.0	42.3 (42.2 / 47.6)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I
 ()内左側(網かけ)は前月9月の先行き見通しD I
 ()内右側は昨年10月の先行き見通しD I

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、56.4となり、前月に比べると+0.7ポイントと、ほぼ横ばいで推移した。産業別にみると、D I値のマイナス幅は、卸売業、小売業を除く、他の3業種で縮小した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月ベース)が45.9と前月と比べマイナス幅は拡大した。昨年同時期の先行き見通し(53.6)に比べると8ポイント程マイナス幅が縮小している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が縮小している。前月比では、すべての業種でマイナス幅が拡大した。

採算D I (前年同月比) の推移

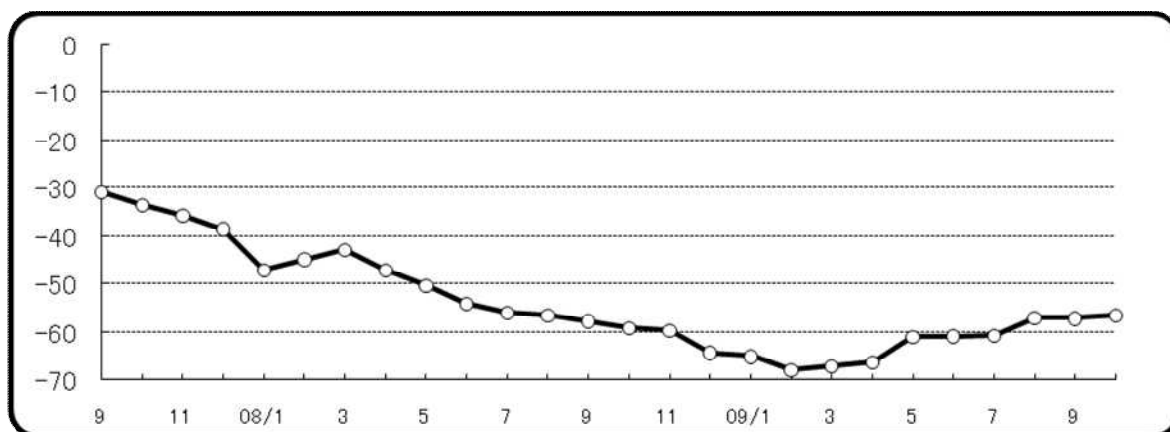
	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	61.0	60.9	60.8	57.0	57.1	56.4	45.9 (43.2 / 53.6)
建設	64.7	67.1	61.1	56.8	58.1	55.9	50.3 (44.9 / 63.2)
製造	68.2	68.3	65.8	61.8	65.4	57.0	42.9 (42.5 / 55.4)
卸売	53.8	56.3	56.4	54.2	50.0	60.4	40.3 (35.4 / 41.9)
小売	59.3	58.4	62.0	57.7	57.3	60.3	48.0 (44.3 / 50.7)
サービス	56.0	53.3	55.9	52.4	50.3	50.0	46.2 (44.8 / 53.8)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月9月の先行き見通しD I

()内右側は昨年10月の先行き見通しD I

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	43.1	42.7	44.7	39.9	40.1	40.2	37.5 (33.3 / 40.4)
建設	51.3	50.9	47.9	43.6	47.5	50.5	44.8 (41.3 / 51.1)
製造	52.7	56.6	53.3	48.7	48.3	47.8	40.8 (36.8 / 44.7)
卸売	40.1	35.1	38.2	38.0	35.0	35.0	37.9 (26.6 / 32.9)
小売	34.8	32.9	38.0	35.9	35.4	35.1	33.6 (29.5 / 33.3)
サービス	38.2	35.9	43.5	33.4	34.2	33.9	33.7 (31.6 / 39.7)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の資金繰りD Iは、40.2となりマイナス幅はほぼ横ばい状態。産業別にみると、建設はマイナス幅が拡大し、他の4業種は横ばい状態となった。

【先行き見通しD I】全産業合計はマイナス幅が縮小する見通し。産業別にみると、卸売、小売を除く、他の3業種でマイナス幅が縮小する見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	13.6	11.6	9.5	10.5	10.3	7.6	9.4 (11.0 / 41.6)
建設	22.3	18.5	15.9	16.8	15.5	18.1	15.0 (16.0 / 41.0)
製造	12.3	10.1	9.1	6.1	8.4	7.6	14.1 (15.1 / 42.6)
卸売	11.8	8.3	3.6	1.4	2.0	5.3	3.8 (2.7 / 38.3)
小売	9.8	7.1	7.6	6.9	6.5	2.0	2.6 (5.5 / 42.1)
サービス	14.4	15.2	13.1	19.4	17.3	12.9	11.4 (13.5 / 41.8)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の仕入単価D Iは7.6となり、上昇感は弱まっている。産業別にみると、建設を除く、他の4業種で上昇感が弱まっている。卸売については、燃料や一部の原材料(アスファルト、銅や砂糖など)などの価格が上昇しているものの、調査対象企業の取り扱う商材の原材料(食料品関係など)が低下していることにより、全体としては需要低迷による原材料価格の低下が寄与したとみられる。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇感が弱まる見通し。産業別にみると、すべての業種で上昇感が弱まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全産業	21.2	18.7	21.1	19.4	20.5	19.3	15.8 (16.2 / 11.7)
建設	39.5	36.5	37.4	25.4	31.7	30.4	23.3 (26.7 / 25.8)
製造	31.7	28.4	32.3	29.2	30.6	31.4	24.8 (24.3 / 15.3)
卸売	17.9	17.4	21.7	19.4	25.3	22.7	17.3 (16.4 / 14.2)
小売	10.7	9.0	10.5	13.3	13.3	10.7	10.8 (11.2 / 4.0)
サービス	11.9	8.3	11.0	12.3	8.8	8.4	7.1 (6.5 / 6.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計の従業員D Iは、 19.3となり過剰感は弱まった。

産業別にみると、製造を除く、他の4業種で過剰感が弱まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は過剰感が強まる見通し。産業別にみると、建設を

除く、他の4業種で過剰感が強まる見通し。

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月9月の先行き見通しD I

()内右側は昨年10月の先行き見通しD I

【2009年10月の景気キーワード】

雇用情勢の悪化

依然低調な受注、売上など業況悪化の影響から、雇用の過剰感に関する声が寄せられている。

- ・「雇用維持のため雇用調整助成金等を検討している事業所が多い」(山形・製材木製品製造業)
- ・「雇用調整助成金がなくなった場合、倒産する事業所が増える可能性を懸念」(西尾・鉄素形材製造業)
- ・「一時帰休の延長を検討する企業も見られる」(館山・金属加工機械製造業)
- ・「従業員の自然減を補充しないで対応している」(倉吉・農畜産水産物卸売業)
- ・「業界を取り巻く環境が低調のまま上向かない。後継者が家業に魅力を感じず廃業も出ている」(銚子・他の一般飲食業)

資金繰りの悪化

売上低迷や売掛金の回収サイトの長期化から、企業の資金繰りは厳しさを増している。また、中小企業向け融資や住宅ローンの返済を猶予する制度を盛り込んだ「中小企業金融円滑化法案」に関する声も寄せられている。

- ・「資金繰りは厳しさを増しており、売上の減少に伴い借入残高の比率が上がっている」(さいたま・金属加工機械製造業)
- ・「売上の見通しが立たず、先が見えないので返済が不安で、借り入れ自体ができない」(多治見・すし店)
- ・「『中小企業金融円滑化法案』が実現すればぜひ利用したい」(浦安・農畜産水産物卸売業)
- ・「徐々に上向いているが、支払いが過多のため苦しい。返済猶予がされれば立て直しが可能だ」(土佐清水・食料・飲料卸売業)
- ・「借入金の返済猶予を受けたい。『中小企業金融円滑化法案』の動向に注目している」(臼杵・印刷業)

広がる低価格化

採算を度外視したかのような低価格受注や販売単価の低下等について訴える声が多く寄せられた。

- ・「単価が安く採算のとれない工事が多い」(島田・建具製造業)
- ・「消費者は安くても必要なものしか買わない」(東大阪・その他の小売業)
- ・「土曜日の宿泊客が増したが、客単価は依然低く、経営が厳しい状況は変わらない」(福山・旅館)
- ・「過剰な価格競争が経営を圧迫しているが、愛媛県では調査基準価格の引き上げ、最低制限価格制度の導入といった施策が実施された。事業量の減少が続く中、安値受注の歯止めになることを期待」(新居浜・一般工事業)

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
09年 5月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	新型インフルエンザの悪影響
6月	雇用情勢の悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
7月	雇用情勢のさらなる悪化	経済対策に対する期待感	広がる低価格化
8月	雇用情勢の悪化	経済対策の効果	広がる低価格化
9月	雇用情勢のさらなる悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化
10月	雇用情勢の悪化	資金繰りの悪化	広がる低価格化

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。本文中の()内は、(地名・業種)を示す。

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、関東、東海、中国、九州の4ブロックでマイナス幅が拡大している。特に、関東、東海では卸売業を中心に、中国では小売業を中心に、九州では製造業を中心にマイナス幅が拡大した。一方、北海道、東北ではサービス業を中心にマイナス幅が縮小した。特に、旅館などから、土日の観光客が増加しているとの声が多く寄せられている。北陸信越では製造業を中心にマイナス幅が縮小した。

ブロック別の向こう3カ月（11月～1月）の業況の先行き見通しは、前月と比べ、北海道を除く、すべての地域でマイナス幅が拡大した。また、昨年同時期と比べて、すべての地域でマイナス幅が縮小している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

	09年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月～1月
全 国	65.7	64.2	63.6	59.6	61.4	60.6	49.9 (46.4 / 60.5)
北 海 道	58.8	56.4	50.6	52.3	60.8	53.4	40.3 (45.6 / 53.4)
東 北	64.6	66.9	65.9	56.7	62.9	51.9	50.9 (47.3 / 65.2)
北陸信越	58.7	60.1	69.0	66.7	63.2	57.3	53.1 (48.3 / 62.9)
関 東	67.4	66.7	63.8	56.5	60.0	62.2	48.2 (45.9 / 58.9)
東 海	75.4	70.1	67.2	62.1	67.1	73.9	50.4 (46.1 / 59.4)
近 畿	74.2	70.3	67.8	62.0	67.4	67.3	56.4 (49.5 / 61.3)
中 国	77.2	71.9	69.3	71.3	67.2	69.4	56.1 (47.5 / 63.6)
四 国	47.7	49.2	50.4	50.4	47.2	45.7	35.9 (32.0 / 62.6)
九 州	60.9	58.9	61.1	59.0	56.5	58.9	54.8 (52.6 / 58.6)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しD I

()内左側(網かけ)は前月9月の先行き見通しD I

()内右側は昨年10月の先行き見通しD I

【ブロック別・特徴的なコメント】

産 業	概 況
北海道	<ul style="list-style-type: none"> ・「補正予算による公共工事の効果が出ている」(建築工事業) ・「現在仕事は確保しているが、収益率が極めて低い」(農業用機械製造業) ・「エコポイント制度の効果で、対象商品の売上が好調」(商店街) ・「合宿の宿泊予約が増えたため売上は前年並み」(旅館)
東北	<ul style="list-style-type: none"> ・「季節商品は動きつつあるものの不安定で、全体的には低調で先が読めない状況」(織物外衣製造業) ・「秋物商品が動き出しているが、厳しい状況は変わらない」(百貨店) ・「土日は日帰り観光客が増加。紅葉シーズンを迎え、天候に恵まれれば期待できる」(旅館)
北陸信越	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人向け住宅の落ち込みが激しく今後が不安」(一般工事業) ・「産業機械等について、中国向けの引き合いが若干増加」(金属加工機械製造業) ・「不況に耐えている状況が続いている。いつまで持ちこたえられるか不安が大きくなっている」(商店街) ・「新潟国体が終了し、新しい地域振興キャンペーンに期待している」(旅館)
関東	<ul style="list-style-type: none"> ・「ハツ場ダム等の建設中止に対し、今後の動向を注目」(一般工事業) ・「飲食店の業況が悪く低空飛行。毎月持ち出しが続く」(農畜産水産卸売業) ・「一部の秋物衣料に動きは見られるが、低価格志向のため、客単価が上がらず苦戦。今後に期待したいが、景気の二番底の懸念もあり予断を許さない状況」(商店街)
東海	<ul style="list-style-type: none"> ・「何とか最悪期を脱し稼働率も高まってきた。全体をみると業況は好転しつつある」(工業用プラスチック製品製造業) ・「年末に採算がとれるか不安」(農畜産水産物卸売業) ・「消費者の買い控え、低価格志向で客単価が減少。加えて、新型インフルエンザの影響から客数が大幅に減少」(百貨店)
近畿	<ul style="list-style-type: none"> ・「仕入単価が下がっているため、売上は減少しているが採算は維持」(一般工事業) ・「親企業製品のリコールで一時的にフル稼働となっている企業もあるが、全体的には低調」(計量機・測定器・分析機器・試験機製造業) ・「食料品の回復が顕著だが、衣料品の夏物処分が悪く低迷状態」(百貨店) ・「一日も早い景気対策の実行を望む」(商店街)
中国	<ul style="list-style-type: none"> ・「今後の公共工事の予算がどうなるか不安」(一般工事業) ・「新造船の受注キャンセルなどが出始め、今後非常に厳しくなる」(船舶製造・修理業) ・「衣料品が苦戦している」(商店街)
四国	<ul style="list-style-type: none"> ・「9月まで公共工事の前倒し発注があったため、下期は仕事が減少する」(一般工事業) ・「金曜日を休みにする会社がなくなった。新型インフルエンザに感染した従業員が出たので拡大を懸念」(建設用建築用金属製品製造業) ・「やや良くなってきている。修理台数や新古車販売も増えているわけではないが、仕事がなくなることはない状況」(自動車整備業)
九州	<ul style="list-style-type: none"> ・「公共工事の前倒し発注により手持ち工事は増加しているが、補正予算凍結の影響を懸念」(一般工事業) ・「仕事量の減少に加え、販売単価の低下により、今後1年程度厳しい状況が続くと予想している」(産業用電気機械製造業) ・「売上、粗利の確保ができない状態が続いている」(各種商品卸売業)